

授業科目名	演技・演出実習 I～VIII	担当形態	実習		
		開講学期	春・秋		
担当教員	はせ ひろいち	単位	1	年次	1, 2, 3, 4

＝授業のテーマ及び到達目標＝

「会話劇のシステム」を実践的に経験し、演劇ならではの「独特なリアリティー表現」を習得する。

＝履修の条件と学習の方法＝

- ・動きやすい服装、靴で参加すること。
- ・挨拶はしっかり気持ちよく。
- ・欠席、遅刻は必ず事前に連絡すること（共演者や稽古の進行に迷惑が掛かります）。
- ・「新しい自分に出会う」気持ちで積極的に題材に参加しましょう。

＝授業の概要＝

現代演劇を語る上で軽視できない「会話劇のシステム」を学ぶため、複雑に絡み合っている存在する「セリフ」「カラダ」「イシキ」を、セルフコントロールする技術の習得を目指す。また同時に、現代社会が直面しているコミュニケーションの問題を含めた、現代演劇の新しい可能性を考え模索する。具体的には、複数学年、別の学科の学生が混在する状況を前向きに利用し、その年度に合った（男女比、経験の差）短い台本を使用し、より実践的、経験的な実践をかさねる。音響、照明をできる限り利用し「本番」を疑似体験することにより、緊張の中で平常心を作り出す経験値を増やす。

＝授業計画＝

- 1回 ガイダンス：シラバス（講義の目標や内容）の確認。
- 2回 ミニゲームを通じ会話劇の基本要素を体験する。
- 3回 「話す」と「聞く」を立体的に体験する。
- 4回 「意識」と「体」の関係性を体験する。
- 5回 エチュード用の台本を使って会話を体験する①。
- 6回 エチュード用の台本を使って会話を体験する②。
- 7回 発表会用の短編台本を提示、初読み。解釈、ポイント整理。
- 8回 キャスティング発表、読み稽古。
- 9回 立ち稽古①
- 10回 立ち稽古②
- 11回 立ち稽古③
- 12回 通し稽古①
- 13回 通し稽古②
- 14回 発表会。
- 15回 発表会の講評、振り返り。まとめの授業。

＝テキスト（必携）＝

特になし。台本などは必要に応じて授業時に配布します。

=参考書・参考資料（必携）=

特になし。必要に応じて授業時に紹介します。

=成績評価の方法と評価の基準=

出席を含めた通常の参加状況を 50%、授業態度 10%、残りを各種エチュードの理解度、学期末の発表会成果に配分するイメージで総合的に評価する。

=その他=